

倒錯した「真理」と死刑制度

映画 (監督 制作年) × 語る人 (一回限り、裏面参照)

『金子文子と朴烈』

(イ・ジュンイク 2017) × 石川優実

©2017, CINEWORLD & MEGABOX JOONGANG PLUS M. ALL RIGHTS RESERVED



『友罪』

(瀬々敬久 2018) × 瀬々敬久

© 第九 吾・集英社 ©2018 映画「友罪」制作委員会



『デビルズ・ノット』

(アトム・エゴヤン 2013) × 柳下毅一郎

©2013 DEVILS KNOT LLC. ALL RIGHTS RESERVED



『フォンターナ広場』

(マルコ・トルリオ・ジオルダーナ 2012) × 小倉利丸

© 2012 Cattleya S.r.l. - Babe Films S.A.S.



『眠る村』

(齊藤潤一・鎌田麗香 2018) × 齊藤潤一

© 東海テレビ



『39 刑法第三十九条』

(森田芳光 1999) × 香山リカ

© 松竹・光和インターナショナル



『抵抗 死刑囚の手記より』

(ロベール・ブレッソン 1956) × 太田昌国

collection Gaumont



『霧の旗』

(山田洋次 1965) ©1965 松竹株式会社



渋谷 ユロスペース

東京都渋谷区円山町1-5 KINOAUS 3F

「真理省」の壁に「戦争は平和、自由は隷従、無知は力」なるスローガンが掛かる。或る国の〈架空の〉物語を書いたのはジョージ・オーウェルだった。「こんな馬鹿なことが起こるわけではない。フィクションだから可能な世界だ」。該当する時代を知らない人はそう考えがちだ。だが、私たちがいま住む社会ではこのスローガンが〈真理〉として通用していないか。死刑についてはどんな「真理」が語られているだろうか？「人を殺したからには死刑は当然」「国家が死刑の権限を持つのは当然」「ここに集う8本の映画を観て、私たちは別な「真理」を掴み取ることができるだろうか。」

第9回死刑映画週間

倒錯した「真理」と死刑制度

上映作品

A 『眠る村』



2月15日(土) 11:00
18日(火) 13:30
19日(水) 19:00
21日(金) 13:30
© 東海テレビ

監督=齊藤潤一・鎌田麗香

2018年/日本/96分/デジタル
プロデューサー=阿武野勝彦 音楽=本多俊之 撮影=柴田勇也
ナレーション=仲代達矢

【物語】東海テレビドキュメンタリー劇場公開作品。1961年に三重県と奈良県の県境にある村、葛尾で5人の村人が死亡した事件、いわゆる「名張毒ぶどう酒事件」を57年後の現在から描いたドキュメンタリー作品。一番無罪から逆転死刑判決を受けた戦後唯一のこの事件は、今もなお謎だらけである。決定的な証拠はなし、自白の信憑性、二転三転する証言、かたくなに再審を阻む司法のあり方等。事件発生時から東海テレビが撮りためてきた貴重な映像と、現在の村人の証言からは、新たな謎が浮かび上がってくるのだ。

B 『金子文子と朴烈』



2月15日(土) 13:30
17日(月) 11:00
18日(火) 16:00
21日(金) 16:00
©2017, CINEWORLD & MEGABOX JOONGANG PLUS M. ALL RIGHTS RESERVED

監督=イ・ジュンイク

2017年/韓国/128分/DCP
出演=イ・ジュンファン チェ・ヒソ キム・インウ 山野内扶 キム・ジュンハン 金守彦

【物語】1923年、東京。有楽町のおでん屋で働く金子文子は、朝鮮人アナキスト朴烈の詩「犬ころ」に共鳴。ふたりは同志であるとともに、恋人としても生き始める。「不逞社」を結成し仲間たちと活動を開始。しかし、その年9月1日に起きた関東大震災によって、ふたりの運命は大きく揺れ動いていくことになる。日本政府は、震災による人々の不安を抑えるためと称して、朝鮮人を虐殺し、社会主義者を弾圧する。金子文子と朴烈も拘束されるが、彼らは社会を変えようと、獄中で戦い始める。ふたりの闘いは、日本国家を根底から揺るがすような裁判へと向かっていく。

C 『抵抗 死刑囚の手記より』



2月15日(土) 16:30
21日(金) 19:00

collection Gaumont

1956年/フランス/97分/DCP
原案=アンリ・ドヴィニ 撮影=レオンス・H・ビュレル 出演=フランソワ・ルテリエ シャルル・ルクランジュ ローラン・モノ

監督・脚本=ロベール・ブレッソン

【物語】フランスのアンリ・ドヴィニ大佐による手記をもとにした作品。1943年、ドイツ占領下のフランスのリヨンで、フォンテヌ中尉はドイツ軍に連行される。彼は移送中に車からの脱走を試みるが失敗し、手錠を付けたままモントリック監獄の独房に入ることにする。やがてフォンテヌは自室の小さな窓を使い、中庭を散歩する囚人の一人に外部との連絡をとってもらい…。監督のブレッソンは職業俳優をさらい、素人たちの演技を独特の映像表現で捉え、フォンテヌ中尉の脱獄過程を描いていく。

D 『霧の旗』



2月15日(土) 19:00
17日(月) 13:30
19日(水) 11:00
20日(木) 16:00
©1965 松竹株式会社

監督=山田洋次

1965年/日本/111分/35mmフィルム
原作=松本清張 脚本=橋本忍 撮影=高羽哲夫 音楽=佐藤勝
出演=倍賞千恵子 滝沢修 露口茂 新珠三千代 金子信雄 市原悦子 川津裕介

【物語】桐子は、熊本の老婆殺しの犯人として逮捕された兄正夫の無実を信じ、東京の高名な弁護士である大塚を訪ねた。正夫の弁護を依頼するのだが、すげなく断られてしまう。大塚弁護士は事件に疑問を持ち調査をすると、事件の核心をつかむ。数日後、桐子からの手紙で、兄が死刑になったことを知る。大塚は引き受けなかったことを悔やむが…。兄の死後に上京した桐子は、パー勤めを始める。客である男から大塚弁護士が事件の核心を握ったらしいことを知る。桐子は大塚弁護士に近づいていくのだ。

E 『フォンターナ広場』



2月16日(日) 11:00
18日(火) 19:00
20日(木) 13:30
©2012 Cattleya S.r.l. - Babe Films S.A.S

監督・脚本=マルコ・チュリオ・ジョルダナ

2012年/イタリア、フランス/129分/DCP
出演=ミケラ・マスタンドレア ビエルランチェスロ・ファウーノ ヴィレラ・チェスコン ラウラ・キアッティ ファブリツィオ・ジフーニ

【物語】1969年12月12日16時37分。イタリアのミラノ、フォンターナ広場にある全国農業銀行が爆破された。死者17人、負傷者88人。ミラノ署は左翼の犯行を疑い、アナキストを次々と連行していった。彼らのリーダー的存在である鉄道員ビネッリも容疑者とされた。だが、現場の捜査指揮をとるカラブレイジ警視は、ビネッリの人間性を知りその犯行を簡単に信じられなかった。そんな時に、ビネッリが取調べ中に転落死してしまう。自殺か、事故死か、殺人か。ビネッリの妻は夫の無実を信じ警察を訴える。カラブレイジ警視は裁判で矢面に立たされ、真実が徐々に明かされていくのだが。

F 『友罪』



2月16日(日) 13:30
17日(月) 16:00
19日(水) 13:30
21日(金) 11:00
©2018 映画「友罪」製作委員会

監督・脚本=瀬々敬久

2018年/日本/129分/DCP
原作=薬丸岳 撮影=鍋島淳裕 音楽=半野喜弘 出演=生田斗真 瑛太 夏帆 富田靖子 山本美月 佐藤浩市

【物語】町工場で働き始めた元ジャーナリスト益田と、他人との交流を頑なに拒む鈴木。共通点のまったなかったふたりが、町工場の同じ寮で暮らし始め、少しずつ友情を育てていく。しかしそんな中、彼らが住む町の近くで児童殺人事件が起こる。SNSで17年前に日本を震撼させた事件との類似性が指摘される。当時14歳だった少年はすでに出所していて、今度も彼の犯行ではないのか、とネットでは拡散されていく。益田はその少年Aの写真を見て愕然とする、これは鈴木ではないか…。

G 『デビルズ・ノット』



2月16日(日) 16:30
17日(月) 19:00
20日(木) 11:00
©2013 DEVILS KNOT LLC. ALL RIGHTS RESERVED

監督=アトム・エゴヤン

2013年/米/114分/DCP
出演=コリン・ファース リース・ウィザースプーン アレッサンドロ・ニヴォラ デイン・デハーン ミレイユ・イノス

【物語】1993年、アメリカのアーカンソー州で実際に起きた未解決事件を描いた作品。少年3人が逮捕されたこの事件は、米史上最悪の冤罪事件とも言われ、「ウエスト・メンフィス3事件」と呼ばれている。93年の初夏、メアカーンソー州ウエスト・メンフィスで3人の児童が無残に殺される猟奇殺人事件が起こった。事件当日の不審者目撃情報が入るが、小さな田舎町は押し寄せたメディアでパニック状態になってしまう。警察によって少年3人が逮捕される。しかしこの逮捕に不自然さを感じた私立探偵のラックスが、弁護士とともに調査を始める。

H 『39 刑法第三十九条』



2月16日(日) 19:00
18日(火) 11:00
19日(水) 16:00
20日(木) 19:00
© 松竹/光栄インターナショナル

監督=森田芳光

1999年/日本/133分/35mmフィルム
脚本=大森寿美男 出演=鈴木京香 堤真一 岸部一徳 吉田日出子 山本未来 樹木希林 江守徹 杉浦直樹

【物語】刑法39条には、心神喪失者の行為は罰しない、心神耗弱者の行為はその刑を減ずる、とある。若い夫婦を殺害したとして劇団員の柴田が逮捕される。国選弁護人となった長村は法廷でおかしな言動をする柴田の精神鑑定を要求する。精神鑑定人となった精神科教授の藤代は、彼は解離性同一性障害(多重人格)で、犯行時は解離状態で心身喪失状態であったと鑑定する。しかし藤代の助手である小川香深は別の鑑定をし、検察の草間に直訴し再鑑定人となり、独自の調査で柴田の内面に迫っていくのだが。

◆各回入れ替え制

*一部の作品の画・音に不備がある場合もありますので、ご了承ください。
*やむを得ない事情により作品及び上映時間が変更される場合がございます。

15日(土)	16日(日)	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
A 11:00	E 11:00	B 11:00	H 11:00	D 11:00	G 11:00	F 11:00
B 13:30	F 13:30	D 13:30	A 13:30	F 13:30	E 13:30	A 13:30
上映終了後トーク						
石川優実		瀬々敬久				
C 16:30	G 16:30	上映終了後トーク				
D 19:00	H 19:00	柳下毅一郎	小倉利丸	齊藤潤一	香山利裕	太田昌国

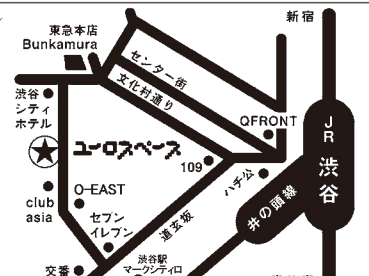
協力: 東海テレビ・太秦・松竹/ムヴィオラ/GAGA/アンスティチュ・フランセ日本/キノフィルムズ/東風

入場料金

一般1,500円/大学・専門学校生1,300円/シニア1,100円
会員1,100円/高校生800円
前売券 5回券4,500円/3回券2,800円/1回券1,000円

ユーロスペース劇場HPでは3日前から各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ、詳しくはユーロスペース劇場HPを確認ください)。前売券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません。

ユーロスペース 渋谷区円山町1-5 (渋谷・文化村前交差点左折) TEL. 03-3461-0211
<http://www.eurospace.co.jp/>



ゲスト紹介: 石川優実=モデル/瀬々敬久=映画監督/柳下毅一郎=映画評論家/小倉利丸=批評家/齊藤潤一=テレビ・ディレクター/香山利裕=精神科医/太田昌国=評論家